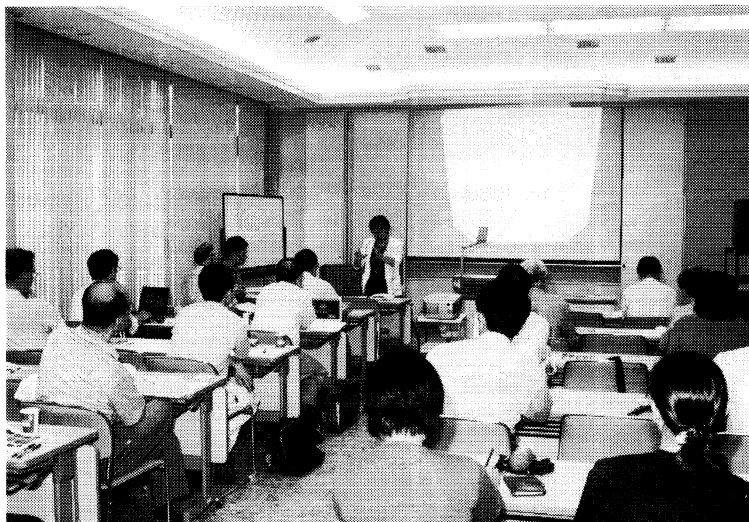


第 36 回熱測定ワークショップ「生物進化の熱力学」

今年 8 月 22 日（金）、大阪大学豊中キャンパスにおいて表題のワークショップが開催されました。主催は日本熱測定学会。近年驚くべき進歩を遂げた遺伝情報解析は、生物学に実にたくさんの利益をもたらしましたが、同時に遺伝子中心主義とも言うべき研究の偏重も生む結果になりました。一方、熱測定分野では、バイオと呼ばれている研究の多くがたんぱく質や脂質、核酸といった材料研究であり、これまで微生物を除いては生物体そのものを生物学の視点から熱的に研究されることが少なかつたのではないかと思います。そこで、生物進化と生命誕生の原理としての熱力学と、生物の生き様の測定法としての熱測定の可能性を探る目的で、このワークショップが企画されました。依頼講演（4 件）と参加者の研究紹介およびコメント（4 件）の後、討論が行われました。東海、近畿、中四国から 35 名の参加者があり盛会のうちに終えることができました。このような冒険的テーマのワークショップは初めての試みでしたが、熱測定研究者が生物進化研究に取り組むきっかけと研究者のつながりを作る機会を提供できたのではないかと思います。

（長野八久）



プログラム

依頼講演：

白井浩子（岡山大学）「生物進化のエネルギー論」

四方哲也（大阪大学，JST）「タンパク質機能の実験室内進化」

天谷和夫「生命の起源，生物の進化の基本を探る－非平衡熱力学，分子ア
ンヴィル酵素モデルの立場から」

池原健二（奈良女子大学）「遺伝暗号の起源および生命の起源」

参加者の研究紹介とコメント：

織田昌幸（京都府立大学）

「親和性成熟過程にある抗体の抗原認識機構変化」

菅野礼司（大阪市立大学名誉教授）「物質の進化とその定義」

木村隆良（近畿大学）「生物熱測定の実際」

野口 航（大阪大学）「植物におけるエネルギー消費」

全体討論

懇親会